

特集

産婦人科医も知りたい旅行医学関連の諸問題
～東京オリンピック・パラリンピックに向けて

産科と婦人科 別刷

Vol. 87 No. 4 (2020年4月1日発行)

12. 渡航ワクチンの考え方と トラベルクリニックのあり方

宮津光伸
名医病院予防接種センター顧問

要旨

渡航ワクチンの選択は年齢や準備期間、渡航先と期間、その行動などを基準に適切に要領よく計画的に接種する。破傷風の追加は無用でDPTを接種する。A型肝炎・B型肝炎の特徴と日本脳炎さらに狂犬病の考え方を中心に説明した。麻疹風疹おたふくかぜ水痘の抗体検査で無駄な接種を控える。渡航ワクチンの特徴とその目的を考えて個人ごとに必要な選択をする。成人でも母子手帳の確認と記録は必要。接種記録は英語表記で作成する。

KeyWords : 渡航ワクチン、破傷風を含んだワクチン、麻疹風疹おたふくかぜ水痘の抗体検査

はじめに

それらの内容を理解して積極的にサポートしてほしいと考える。企業の予防接種基準や多くの参考図書は『厚生労働省検疫所のFORTH・海外で健康に過ごすために』を参考¹⁾にしてそのままを引用しているようであるが、あれは海外での感染症について記載しているに過ぎずその感染症予防対策ではないことをきちんと理解して必要最低限の予防接種を選択して計画的に準備してほしい。本稿ではより適切と思われる予防接種選択基準とその特徴を記載する²⁾。

ワクチンの選択とその考え方について述べる。当センターの基本的なスタンスは、関心の低い、不勉強な企業や個人の意向に左右されることなく、個人の健康管理を目的として必要最低限の予防接種と検査を計画し、説明しながら理解を得て接種するようにしている。企業の担当者は

必要な予防接種および追加接種と 検査の選択基準

まず、海外渡航に際しての必要なワクチンと検査は、以下のような条件で選択する。

- ①年齢：乳幼児・園児・学齢期・成人(本人)

発行所 株式会社 診断と治療社

